

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目		自己 評価	外部 アンケート等			
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①自分の学校が好きだと感じている生徒の割合が60%以上である。	・学習面および生活面について詳しく把握し、一人ひとりに応じたきめ細かな指導を行う。	A	A	A	①本校が好きだと回答した生徒は88%であった。回答した生徒の満足度は高いと思われる。更に向上できるようにしていきたい。	A：通信制課程に居場所を求める生徒にとってのセーフティネット的な役割を果たすという点では入学希望者が増えていることで評価されてよい。ただ、特色づくりにには積極的であってほしい。 A：生徒の満足度が高い。
		②前期卒業や多様な選択科目など、単位制高校のシステムに満足している生徒が60%以上である。	・生徒の実態やニーズに対応するため教育課程を工夫・改善する。	A	A	A	②単位制のシステムに満足している生徒は95%であった。生徒のニーズの把握と、個々の生徒の実態に応じた教育活動をさらに工夫していきたい。	
		③本校独自の人権教育に満足している生徒が60%以上である。	・人権教育について、生徒に積極的な参加を呼び掛けるとともに、実施内容を検討し、充実を図る。	A	A	A	③人権教育や主権者教育に対しては、86%の生徒が満足していると回答している。また以前に比べて多くの生徒が人権講座に参加した。生徒の関心に応えられるよう工夫をしている。	
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④単位修得した生徒で、学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が60%以上である。	・レポート作成等の自学を促すと同時に、「自学自習室」を開放し、いつでも集中して学習に取り組む環境を提供する。 ・「授業アンケート」の回答等を参考にし、スクーリング等面接指導の改善に努める。	B	A	B	④単位修得した生徒で、学習に対する達成感・満足感を持っている生徒は80%だった。担当者が講座アンケートの回答を振り返り面接指導やレポートの改善に努めた結果、昨年度より10%向上した。	B：「自学自習室」を拡充して、生徒に積極的な参加を働きかけていることは十分に評価できる。学校内での活動が有益であると生徒が感じ取れることは重要であるが、校外での学習が進む手だてを考える新しい学習システムを構築するときでもある。 A：達成感の高い生徒が多い。 B：主体的、対話的で深い学びを実現するためのR、S、Tの運用に対する工夫が必要になるだろう。人と関わるフィールドワーク的な学びのスタイルが通信制のなかで検討されることを望みたい。 A：達成感の高い生徒が多い。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑤主体的に学習に取り組み、教科・科目の知識や思考力が身に付いたと感じている生徒が60%以上である。	・レポートに知識や思考問題をバランスよく配置したり、探究型学習を取り入れたスクーリング授業の実現に向けて、常に改善の工夫をする。	B	A	B	⑤単なる穴埋めだけではなく、思考の問題もバランス良く配置している。生徒の82%が教科・科目の知識や思考力が付いたと感じていると回答した。主体的・対話的で深い学びが実感できるよう工夫していきたい。	
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑥生徒に関する動向確認をスクーリング日の放課後に毎回行い、生徒の個別指導に役立てるとともに、情報交換会議を学期に2回行い、職員全体で情報を共有する。	・スクーリング時の学年だより等の配付によるさまざまな事前周知を確実に行う。また、巡視や面接指導で得た生徒の情報をすみやかに共有し、職員全体の共通理解のもとで組織的な指導を行うことで、諸問題を未然に防ぐとともに生じた問題に早急に対応する。	A	A	A	⑥日常的に生徒の様子をきめ細やかに把握するとともに、情報共有に努め、職員全体の共通理解のもとで組織的な指導を行い、諸問題に対応することができた。	A：生徒一人ひとりについての学習状況を共有すべく、情報交換に努めていると思う。先生方の負担を考えると、ケース会議的に深く理解することよりも、スクリーニング的に短時間で行うのがよいだろう。 A：適切に対応している。 A：いじめに関しては通信制に避難することで、起こっていない可能性が高い。また、アンケートに回答している生徒は比較的問題を抱えていない場合が多いと思われる。生徒間の接触が少ないだけに問題は表面化しない。 A：特にトラブルはない。 B：アンケートの回答に41.5%とあることからすれば、更なる改善が必要となるであろうが、そこに関わる手だてが何であるかは不明確である。学校外での生活がどのようになっているか、個々への面談が一つの方策であろうか。 B：全員の生徒を把握するのは困難。
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑦いじめの発生防止に努めるとともに、細かな兆候を見逃さず、把握したいいじめ・トラブルへの迅速な対処を必ず行う。	・アンケートなどをおして生徒の情報収集に努めるとともに、日常的な生徒観察を行い、いじめの早期発見に努める。まだ小さな訴えも逃さず対策組織で取り上げ、対応する。	A	A	A	⑦アンケート等で生徒のトラブルや悩みに関する情報収集を行うことができた。スクーリング時の様子や電話対応などでも生徒観察を行い、変化を見逃さないよう努めた。	
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑧規則正しい生活を送っていると実感している生徒が50%以上である。	・個々の生活リズムを確立できるよう、学年通信などで呼びかける。	B	B	B	⑧規則正しい生活を送れていると回答した生徒は41.5%であった。卒業後を意識して、スクーリングがない日でも規則正しい生活を送ることができるよう声かけをしていきたい。	
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑨自己の将来を考えさせるための進路説明会を、年に2回以上行う。 ⑩進路関係をテーマにしたLHRを年に2回以上行う。	・生徒の進路に対する意識向上のため、外部機関や外部の人材などと連携した進路説明会を企画する。 ・進路説明会への積極的な参加を生徒に促すとともに、LHRにおける進路指導を充実させる。	A	B	B	⑨進路説明会を実施することで、進路が未定の生徒が考えるきっかけとなっている。生徒の実態をふまえ、外部機関と連携した取り組みを推進していきたい。	B：進路学習の進め方は、生徒が多様であるだけに難しい側面を持っている。ニーズに合わせてグループを分けて進路学習を設定する必要がある。リカレント、リスキリング的な要素も含めて就業が考えられるようにしたい。 A：適切な指導が行われている。 B：進路相談を継続的に実施するうえで一人ひとりの生徒が卒業までどのような力を身に付けるのか項目を選んで段階的に評価できるようなポートフォリオが活用できるとよい。 A：清陵通信が、よく活用されている。
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑪卒業予定生のうち、自分自身の進路について方針が決定している生徒が60%以上である。 ⑫進路についての情報を生徒に与えるために、「清陵通信」を月に1回発行する。	・進路相談週間を設定することで、生徒が気軽に進路相談を受けることができるような環境づくりに努める。 ・「清陵通信」発行の際は、適切な進路情報を精選して提供する。	B	B	B	⑪進路相談週間を設定し、進路に関する相談が気軽にできる雰囲気づくりに努めた。卒業予定生をはじめ、在校生からの進路相談が増えている。今後も随時、相談できるような体制をとっていきたい。	
				A	A	A	⑫アンケートでは、「清陵通信」をしっかり読んでいる、だいたい目を通していると回答した生徒を合わせると約8割であった。進路情報はよく生徒に伝わっているものと考えている。今後とも生徒が必要としている情報の提供に努めたい。	
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑬70%以上の在校生が本校のWebページを見ている。 ⑭入学希望者やその保護者に通信制課程に対する理解を深めてもらうために、本校主催の学校説明会を年2回以上実施するとともに、他の団体主催の合同説明会等に年2回以上参加する。 ⑮保護者や入学希望者に対しての授業公開を年に1回以上実施する。	・学校の教育活動の様子や必要な情報等を本校通信制Webページに掲載し、その内容を随時更新することにより、在校生とその保護者をはじめとして、外部への情報発信を強化する。 ・入学希望者やその保護者に、自主・自律を軸とする通信制課程の特色が伝わるよう、提示する資料や説明の方法を工夫する。 ・在校生の保護者および入学希望者とその保護者にスクーリングの様子を公開し、通信制課程の特色を伝える。	A	A	A	⑬93%以上の生徒が見ている、または見たことがあると回答している。例年よりも、多くの発信したが、来年度以降はさらに充実させ、本校通信制Webページを確認する習慣づけをしていきたい。	A：93%以上の生徒がWebページを見ているということから十分に評価してよい。ただし、見るだけではなく活用しているというレベルまで考えるのであればスマホからアクセスして教材をダウンロードしたりフォームで回答したりすることを推進したい。 A：Webの活用がなされている。
				A	A	A	⑭入学希望者向け学校説明会を4回開催した。そのうち2回は本校ではなく昌賢学園まえばしホール（小ホール）を会場として開催した。他団体主催の説明会にも3回参加することができた。	
				B	B	B	⑮今年度、在校生保護者、入学希望者とその保護者や関係者向けに2回実施した。昨年から始めたレポートの展示を行うブースの設置を今年度も実施した。求校者が興味をもって見ている様子があり、本校の教育活動の理解の一助となったと思われる。今後もさらに充実させていきたい。	
Ⅵ 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑯NHK高校講座やその他のデジタルコンテンツを学習に活用した生徒が30%以上いる。	・スクーリングにおけるICT利用だけでなく、生徒自身がデジタルコンテンツを活用するよう呼びかける。	A	A	A	⑯ICTを活用した学習指導は80%以上で行われている。更に多くの生徒が活用できるよう指導していきたい。県からの端末配布がされなかったり、家庭環境など様々な事情で準備できない生徒が存在していたりする状態をどのように解決していくのか模索していきたい。	A：ICTを活用した学習指導が進んでいることは十分評価できる。NHK高校講座がうまく利用できるのはよいが、そこにさらに自作のコンテンツが入れられれば、もっと面白い学習環境が生まれてくる。 A：ICTが活用されている。 B：Google Formの活用にまだ課題が残っているとのこと。先生方への研修をぜひ進めてほしい。 B：検討の余地がありそう。
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑰ICTを活用して業務改善に取り組む。	・業務の効率化を図るために、ICTを活用できる場面を見極め、導入する。	B	B	B	⑰学校説明会の申込や講座アンケートにおいてGoogle Formsを導入し、業務改善に取り組んだ。	